

---

# 北陸電力グループ2030長期ビジョン ～北陸と共に発展し、新たな価値を全国・海外へ～

---

2019年4月  
北陸電力株式会社

現在、我が国では人口減少やIoT・AI、EV等の新技術による産業構造の変化が進み、今後は、技術革新による既存のビジネスモデルの破壊や新たなビジネスの創出、持続可能な社会への意識の高まり等、更なる変化が想定されています。また、エネルギー業界は、電力小売全面自由化以降の競争激化、地球温暖化に関する環境規制等、非連続な変化に晒されており、この傾向は今後加速していくと見ています。

このような著しい事業環境の変化をビジネス・チャンスに変え持続的に成長して行くためには、当社グループが将来目指すべき姿を描いた上で、事業構造を変革させるべくスピード感を持って諸課題に対応していかなければなりません。そこで、このたび、2030年度までの期間をターゲットとした「北陸電力グループ2030長期ビジョン」のもと、不退転の覚悟で変革に取り組む当社グループの姿勢をお示ししました。

当社のグループ理念「Power & Intelligenceでゆたかな活力あふれる北陸を」に基づき、今後の環境変化を踏まえ、「北陸と共に発展し、新たな価値を全国・海外へ」を当社グループの将来の「ありたい姿」として掲げました。この「ありたい姿」には、小売全面自由化における厳しい競争を勝ち抜くと同時に新たな価値を創造することによって当社グループの成長を実現し、北陸の持続的な発展や豊かな暮らしの実現に貢献するとともに、更に北陸以外にも羽ばたくという想いを込めています。その実現に向け、「北陸を基盤とした『総合エネルギー事業』の拡大」、「新たな成長事業の開拓」の2つを基本戦略として取り組んでまいります。社会的に責任のある総合エネルギー事業者として事業を展開することで、当社グループの持続的な成長を実現し、財務目標として掲げた連結自己資本比率、連結経常利益、事業ポートフォリオ目標の達成を目指してまいります。

2030年度に向けた具体的な実行計画として「第一次中期経営計画〈2019～2022年度〉」を策定しました。この期間は将来のありたい姿の実現に向けた最重要期間であり、「回復・挑戦期」と位置付けています。グループ一丸となって足もとの諸課題を着実に解決していくとともに、新たな事業領域に挑戦することで、将来の成長に向けた土台を形成してまいります。

大きな変化の中にあっても、低廉で良質なエネルギーを安定的にお届けするという変わらぬ使命のもと、当社グループの創業の原点である北陸地域に根差し、地域の発展に貢献するとともに、未来へ向けた新たな価値を創造し、大きく成長していける企業グループを目指してまいります。

## 1951年 北陸電力の創立

戦中・戦後の日本の電力供給体制検討の際、北陸を含まない「8社体制」案が政府から提案されましたが、**地域の後押しを受け初代社長 山田昌作が北陸地域の独自性を力説、8社案を覆し、9社体制**による電力供給体制がスタートしました。

## 水力開発とS+3Eを踏まえた電源の多様化

北陸地域の豊富な水資源を活用した**水力開発に加え、エネルギーセキュリティ向上・電源の低炭素化等に向け、志賀原子力発電所の建設等、電源の多様化**を図ってきました。



<1981年>  
有峰第一水力発電所運開



<1995年>  
七尾大田火力発電所1号機運開  
<1998年>  
七尾大田火力発電所2号機運開



<1993年>  
志賀原子力発電所1号機運開  
<2006年>  
志賀原子力発電所2号機運開

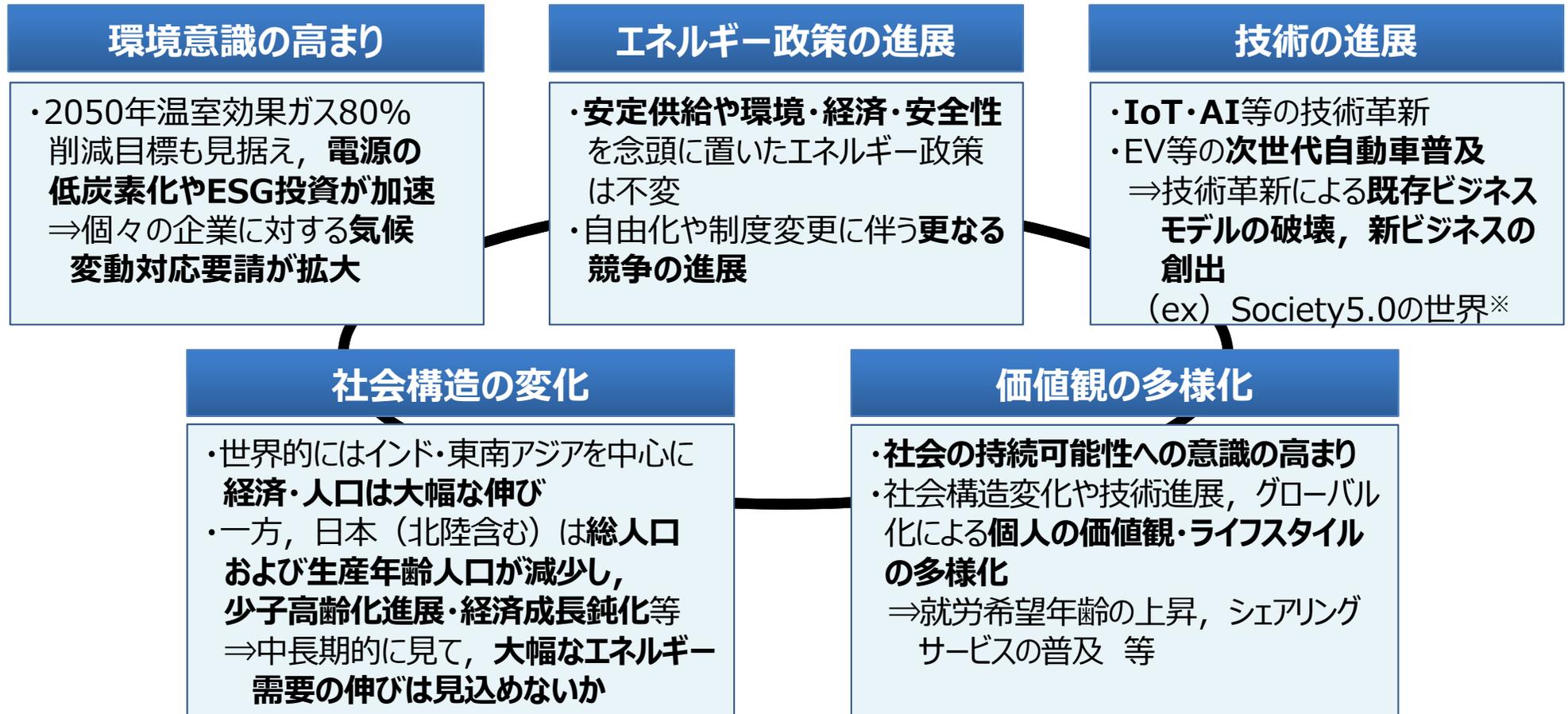


<2018年>  
富山新港火力発電所  
LNG1号機運開

現在

当社は、北陸地域の後押しを受けて設立された会社であり、創立以来、事業活動を通じて、**北陸の発展に貢献する**という思いを脈々と受け継いでいます。

・長期ビジョンの策定にあたり、将来の事業環境と社会のニーズを次の通り想定しました。



※政府が提言する最新技術を活用してサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合する社会（経済発展と社会的課題の解決を両立する社会）

## 社会ニーズの変化

- 社会構造変化や技術進展、価値観の多様化等も踏まえた**新たなエネルギー供給体制（スマートコミュニティ、コンパクトシティ等）**や、**新たなサービス構築ニーズの拡大**
- 個人や企業、国に限らず、**世界的な温室効果ガス削減に向けたニーズ（再生可能エネルギー拡大、省エネ等）の拡大**
- 社会構造変化に伴う**地域の課題解決に向けた、企業への参画ニーズの拡大**

- ・北陸電力グループ理念に基づき、将来の事業環境や社会ニーズの変化も踏まえ、当社グループのありたい姿を次のように設定しました。

## 北陸電力グループ理念

Power & Intelligenceでゆたかな活力あふれる北陸を

## 北陸電力グループ 将来のありたい姿

**北陸と共に発展し、新たな価値を全国・海外へ**

### <考え方>

- 事業環境の変化をビジネス・チャンスとして、新たな価値を創造し、当社グループの持続的な成長を目指します。
- 創立の原点である北陸地域を基盤として、地域の持続的な発展や、豊かな暮らしの実現に貢献します。
- 持続可能な社会を実現する視点でビジネスを展開し、創造した新たな価値を北陸以外へも提供することで、未来へ向けて羽ばたく企業グループを目指します。

## 価値創造プロセス

## 創造する価値

北陸電力グループの将来の「ありたい姿」を実現し、地域の発展や、豊かな暮らしの実現に貢献します。持続可能な社会を実現する視点で、ビジネスを展開します。

以下の価値を北陸のみならず  
その他地域へも展開

低廉・良質なエネルギーを  
安定的にお届けする

北陸地域の  
持続的な  
発展

お客様のニーズに応え  
かなえていく

安心・安全

未来に向けた  
新たな価値を創造する

将来のありたい姿  
北陸と共に発展し、  
新たな価値を全国・海外へ

豊かな暮らし  
の実現

当社グループ

ステークホルダー

人財・組織力

発電

お客様

株主・  
投資家

設備

送配電

販売

地域社会

ビジネス  
パートナー

資源

関連事業、新規事業

地域密着  
地域からの信頼  
(北陸電カブランド)

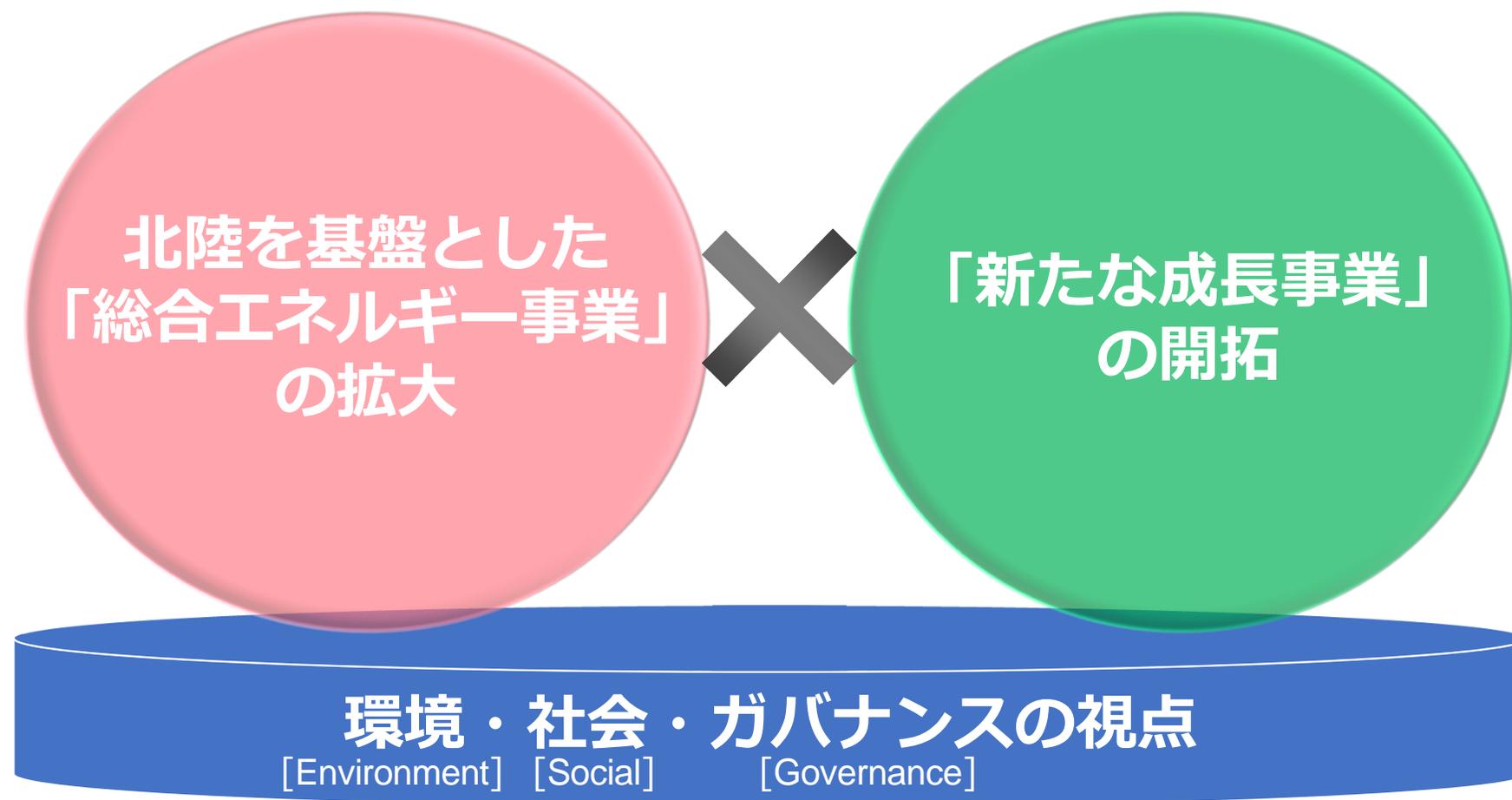
挑戦と創造

中長期視点

グループ理念

- ・北陸を基盤にこれまで展開してきた「総合エネルギー事業」の拡大に加え、「新たな成長事業」の開拓を基本戦略として取り組んでいきます。
- ・また社会的に責任のあるエネルギー事業者として、ESG等の視点も考慮しながら事業を展開していきます。

## 北陸電力グループが取り組む 2つの基本戦略



- ・ ありたい姿の実現に向け、2030年度に向けた総合エネルギー事業の方向性を次の通り設定しました。
- ・ 発電部門では設備の安全・安定稼働や低コストと低炭素化の両立、販売部門では総合エネルギーサービスや付加価値サービスの積極拡大、送配電部門では電力・サービス品質や低廉な託送料金の維持により、総合エネルギー事業の競争力強化と事業領域の拡大を目指します。

## <2030年度に向けた各部門別の方向性>

発電部門	原子力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 志賀原子力発電所の安全・安定稼働</li> </ul>	低コストと 低炭素化 への挑戦
	水力・再エネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再生可能エネルギー発電電力量の拡大                         <ul style="list-style-type: none"> <li>－水力発電電力量の拡大</li> <li>－バイオマス発電電力量の拡大</li> </ul> </li> </ul>	
	火力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経済性・環境面も考慮した設備の再構築                         <ul style="list-style-type: none"> <li>－バイオマス混焼による石炭火力の有効活用</li> <li>－LNG火力比率の増加</li> <li>－将来の火力電源再構築</li> </ul> </li> </ul>	
販売部門		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 総合エネルギーサービス・付加価値サービスの積極拡大                         <ul style="list-style-type: none"> <li>－総販売電力量の拡大</li> <li>－地域エネルギーマネジメントの実現（参加・協力）・展開</li> <li>－LNG販売の拡大</li> </ul> </li> </ul>	
送配電部門		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会環境・技術革新への柔軟な対応                         <ul style="list-style-type: none"> <li>－電力・サービス品質の維持</li> <li>－国内トップ水準の低廉な託送料金維持</li> </ul> </li> </ul>	

- ・グループ事業では、それぞれに成長機会を捉え、新たなサービスの展開や、北陸に留まらない積極的なエリア展開により、事業領域の拡大を目指します。

## <2030年度に向けた主なグループ事業の方向性>

### 主なグループ事業

#### 設備保守・ 建設工事

##### ■ 事業エリアの拡大と高度な付加価値サービスの展開

- －北陸で培った技術・ノウハウに加え、アライアンスも活用した北陸エリア外での事業拡大
- －先端技術を活用した高度な付加価値サービスの展開

#### 情報通信

##### ■ 社会インフラの高度化等の機会を捉えた事業領域の拡大

- －次世代通信規格5Gの整備等に併せた新たな通信サービス・ソリューションの提供
- －AI等新技術分野における新サービスの展開、北陸エリア外での事業拡大

#### サービス・ 不動産

##### ■ 幅広い分野での北陸地域への貢献と事業領域の拡大

- －福祉・人材や不動産事業における北陸地域への貢献と事業拡大
- －環境関連事業におけるアライアンスも活用したソリューション強化

- ・ 2030年度に向けた各部門の方向性を推進することで、次の目標にチャレンジします。

## <2030年度までの計数目標>

### 発電部門

- 再生可能エネルギー発電電力量 = **+20億kWh/年**<sup>※1</sup>  
(= 再生可能エネルギー比率3割)
- 石炭消費量 = **10%削減/年**<sup>※1</sup> (バイオマス混焼増加等による)
- 省エネ法に基づく環境指標の達成
  - 火力総合発電効率 = **44.3%**
  - 火力発電効率の実績値/目標値 = **1.00**

※1 2018年度対比

### 販売部門

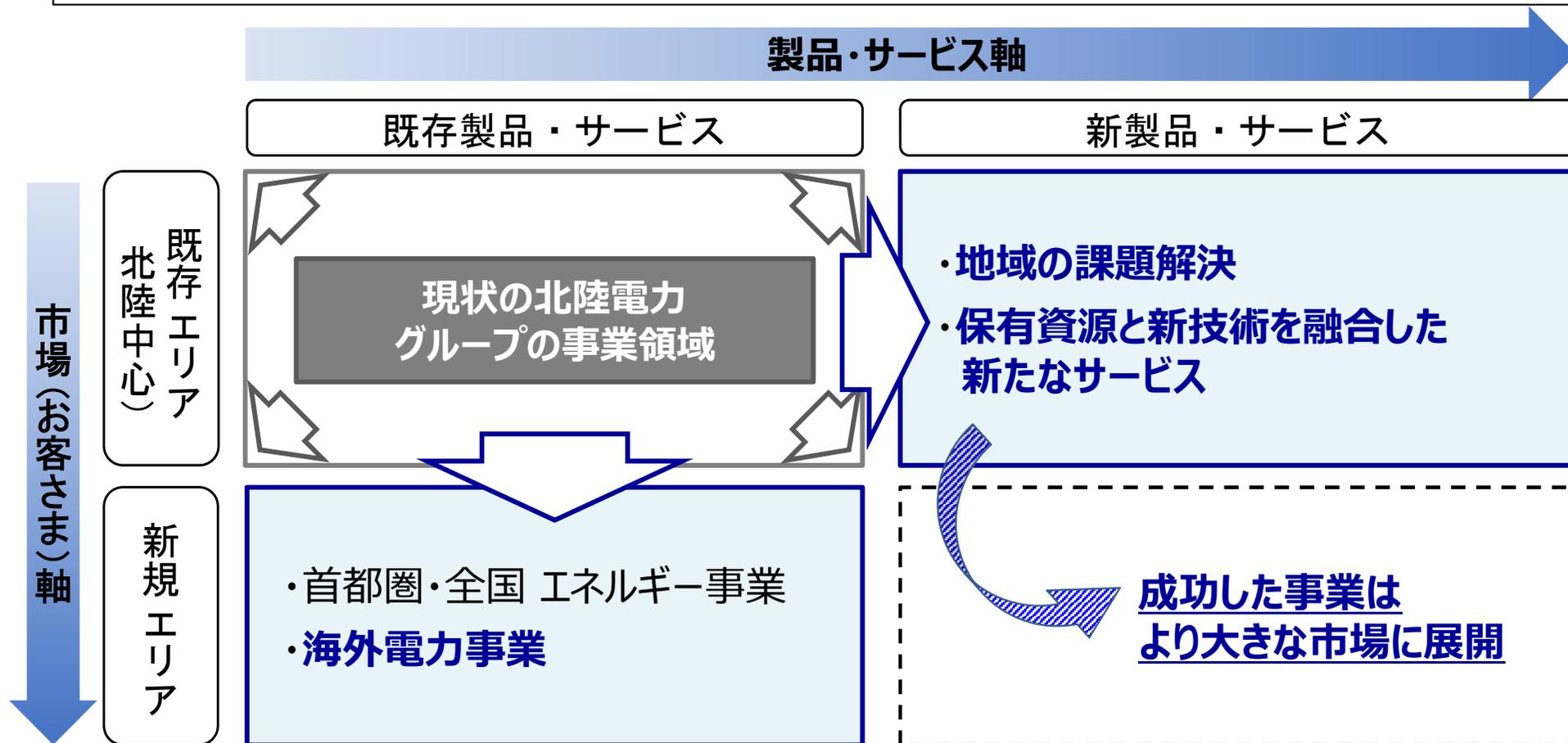
- 総販売電力量 = **400億kWh/年**
- 高度化法に基づく環境指標の達成
  - 販売電力量に占める非化石電源比率 = **44%**
- 温室効果ガス排出係数 = **0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWh**<sup>※2</sup>
- LNG累計契約量 = **20万 t**

※2 「電気事業低炭素社会協議会」(当社を含む電気事業連合会関係各社および新電力の一部で構成) で目指す目標

- ・当社グループは、今後の環境変化を見通したうえで、保有する経営資源を最大限活用し、将来の課題解決を目指した、新たな事業領域を創出していきます。

## ＜新規事業の方向性＞

- **既存の技術・知見・ノウハウ**を活かした事業エリアの拡大（全国・海外へ）
  - **当社の地場優位性**を活かした北陸地域での新製品・サービス展開
  - 北陸での成功事業を、**域外へも展開**
- ※上記については他社とのアライアンスやM & A 等も選択肢



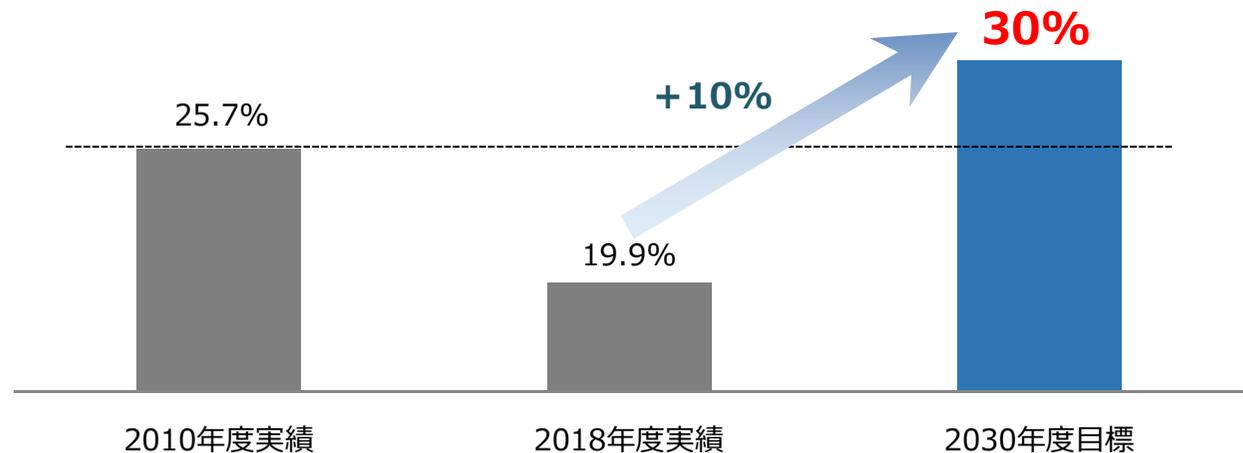
集中的に取り組む分野	事業の位置付け
<p><b>地域の課題解決</b></p>	<p>地方自治体等が現状実施しているサービス、これから実施しようとしているサービスについて、民間活力を活用するべく積極的に参入します。</p>
<p><b>保有資源と新技術を融合した新たなサービス</b></p>	<p>電気事業のインフラや建設・保守で培った技術を応用し、IoT・AI等の新技術を組み合わせた新たなサービスを提供します。</p>
<p><b>海外電力事業</b></p>	<p>今後も経済成長が期待できる海外市場へ当社が知見を有する電気事業で参入します。 また、欧米等の最新技術を習得し、国内に活用します。</p>

- 志賀原子力発電所の早期再稼働，総合エネルギー事業や社会ニーズも踏まえた新規事業の創出・拡大を通じ，バランスのとれた事業ポートフォリオの下で着実に利益を積み上げ，3つの目標（1.連結自己資本比率，2.連結経常利益，3.事業ポートフォリオ）を達成します。

## 1. 連結自己資本比率

- 2030年度までに  
30%以上

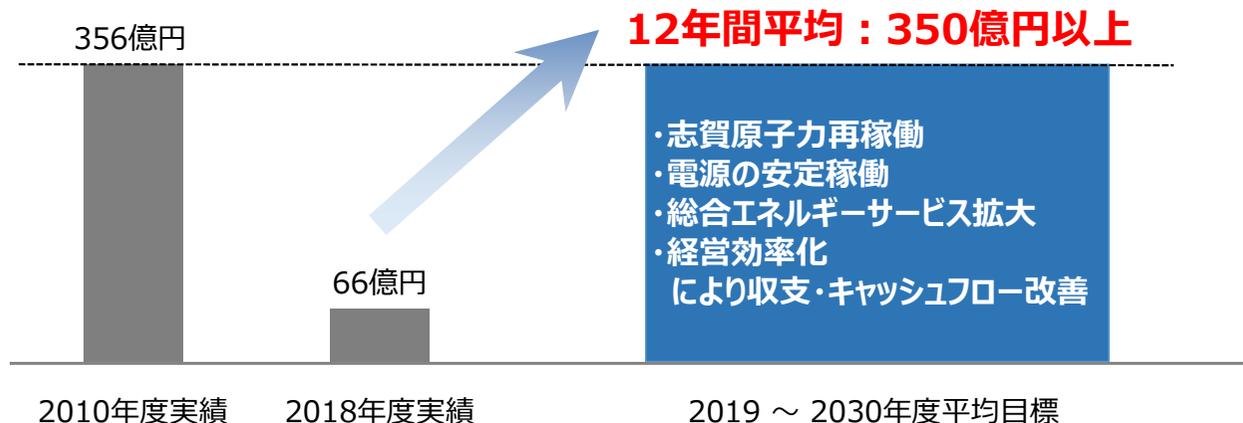
自己資本を  
着実に積上げ



## 2. 連結経常利益

- 期間平均(2019~2030)  
350億円以上

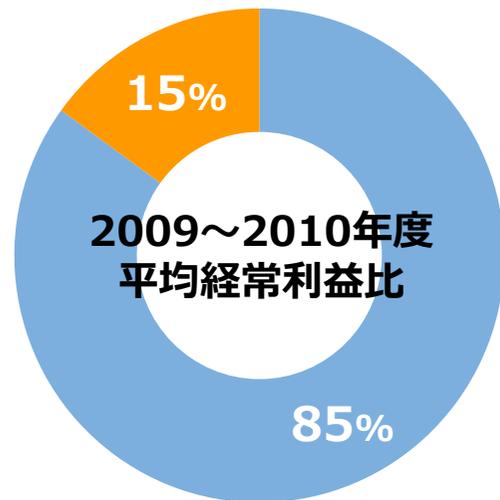
新たな成長事業の創出等により  
利益を底上げ



## 3. 事業ポートフォリオ

- 2030年度頃までに連結経常利益ベースで  
**電気事業 2 : 電気事業以外 1**

<震災前>



- 以下によりキャッシュを創出
- ・志賀原子力再稼働
  - ・電源の安定稼働
  - ・総合エネルギーサービス拡大
  - ・経営効率化 等

ポートフォリオの変革

- ① 北陸を基盤とした総合エネルギー事業の拡大
- ② 新たな成長事業の開拓

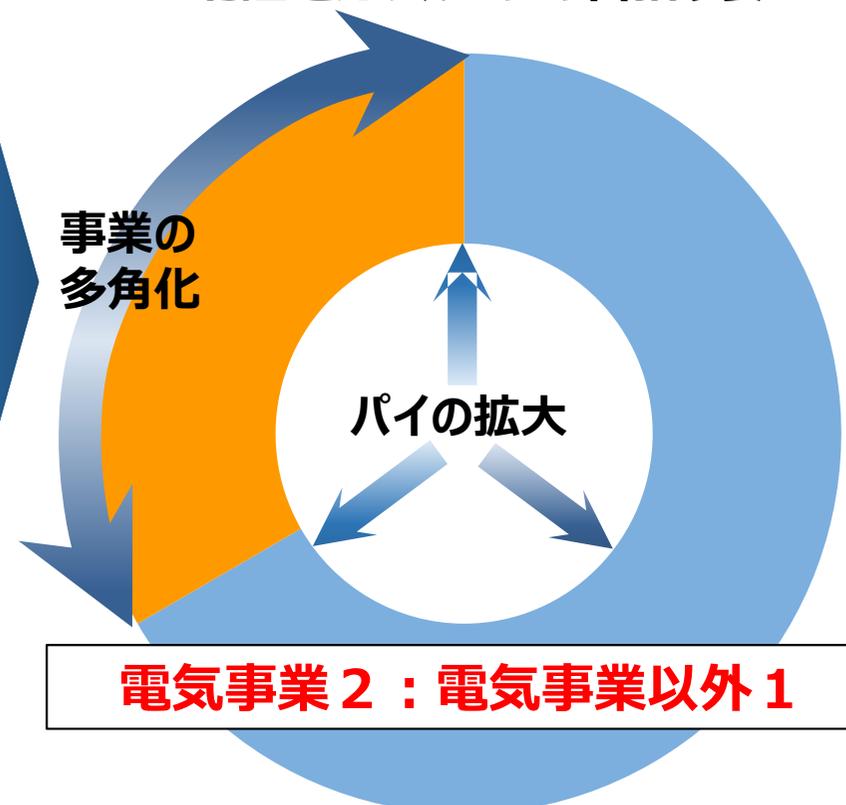
利益の拡大・創出に  
繋がる施策に  
2,000億円以上投資

■ : 電気事業

■ : 電気事業以外

<2030年度>

— 北陸電力グループの目指す姿 —

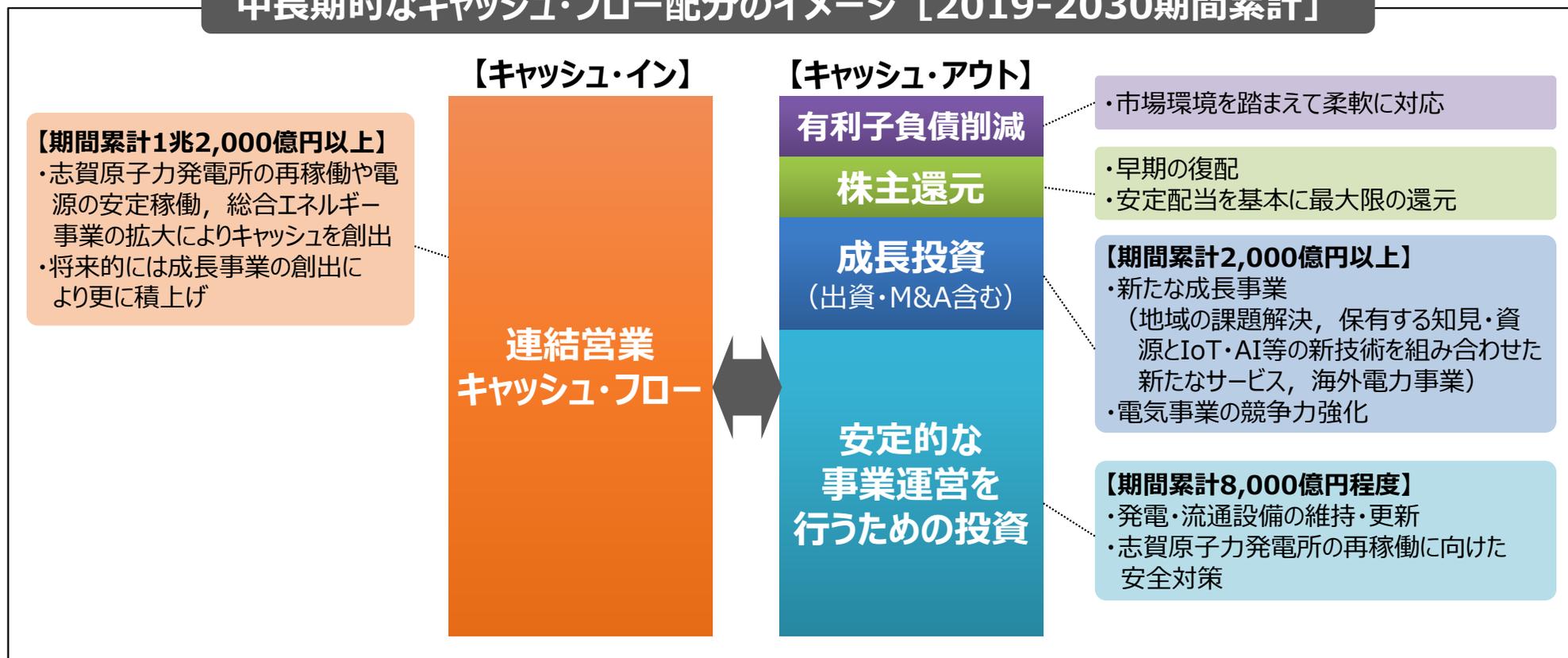


【電気事業以外】 = 電気事業以外の新規事業や海外電力事業等、  
戦略的に投資・拡大させていく事業  
⇒将来的には**150億円/年**程度の利益創出に向けて挑戦

## ＜投資の基本的な考え方＞

- ・ 安定供給に必要な発電・流通設備への投資継続を前提に、長期ビジョンの実現に向け、持続的な成長を遂げるために必要な投資を加速します。

### 中長期的なキャッシュ・フロー配分のイメージ [2019-2030期間累計]

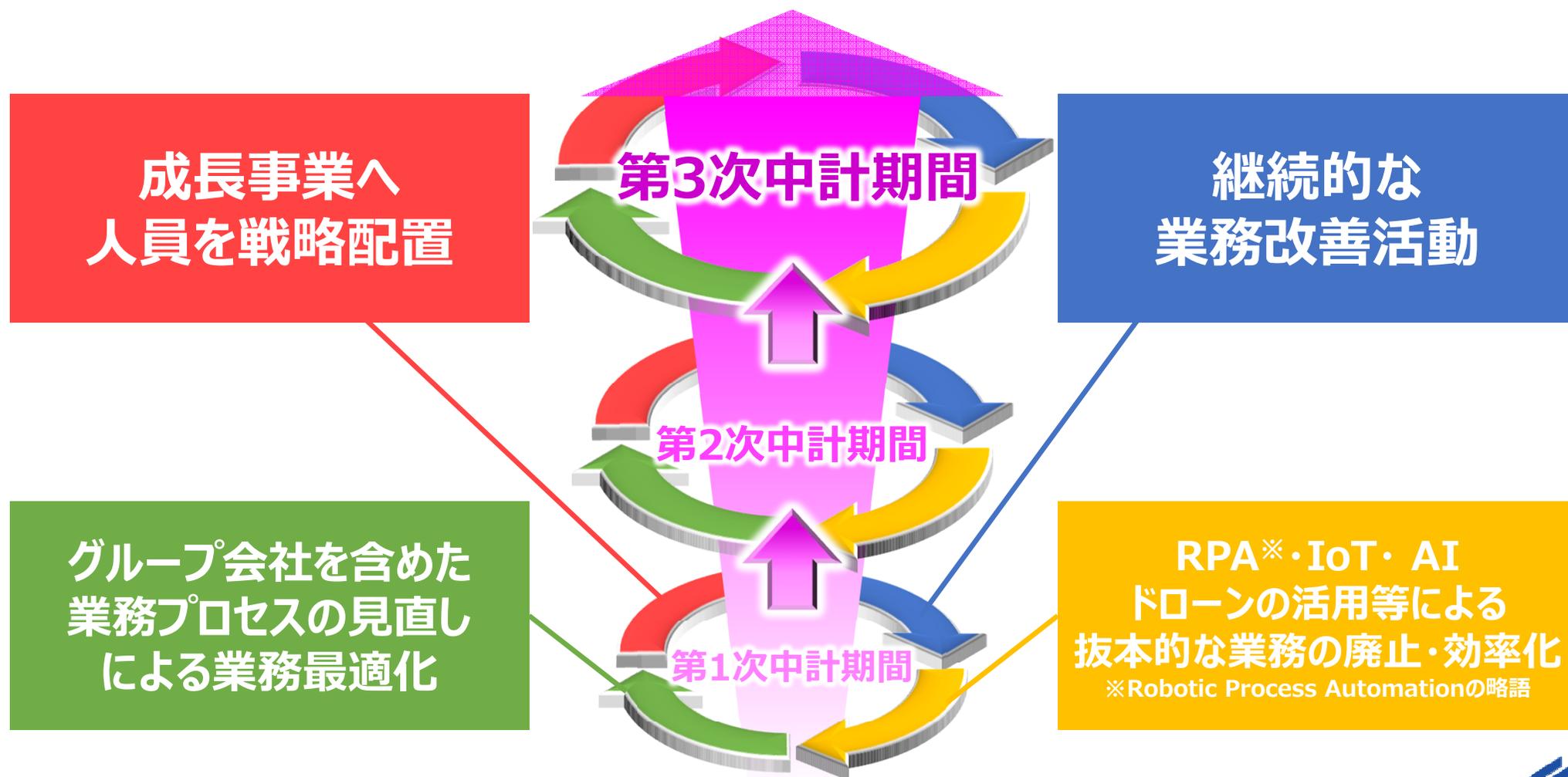


## ＜株主還元の基本的な考え方＞

- ・ 電源の安定稼働，経営効率化による収支・キャッシュフローの改善に努め，早期の復配を目指します。
- ・ 中長期的には，総合エネルギー事業の拡大や成長事業の創出により，財務健全性を確保した上で，安定配当を基本に，株主還元を最大限取り組みます。

- ・ 当社は継続的に生産性向上に取り組み、グループ全体の総合力を強化することで、グループ全体の利益拡大を図っていきます。
- ・ そのため、**2030年度までに全従業員の1割以上の人員を、成長事業へ戦略配置**することを目指します。

## グループ全体の利益拡大



こたえていく。かなえていく。

